

伊子

藩政時代の大豊の行政区分
(豊永郷、本山郷)

本山郷

本山郷

青岐山郷

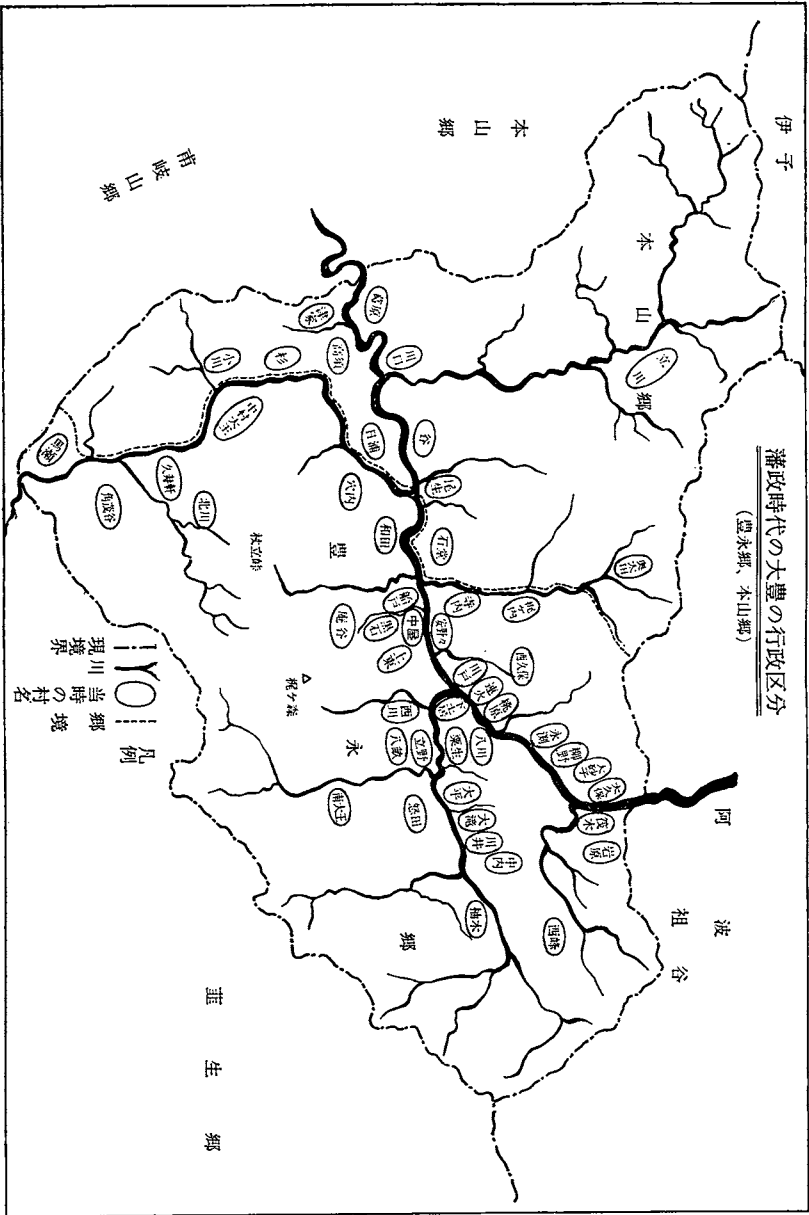
阿波

波祖谷

郷

董生郷

凡例
現川郷境
村名



大豊町史 目次

序

藩政時代豊永郷、本山郷の行政区画図

第一章 大豊町のあらまし

一位	置	二
二	大豊町の発足	二
三	地	三
四	山	四
五	水	五
六	地	六
	質	六
(一)	長岡郡 太古大統結晶片岩(三波川帯)	六
(二)	古生大統 秩父古生層(御荷鉢帯)	六
1	秩父古生層下部(秩父累帯)	六
2	秩父古生層(上中部)	七

(三) 火山灰質土壤（音土又は俗に音地）	七
(四) 大豊町内における音土分布	八
(四) 地質及び土性	八
1 結晶片岩層	八
イ 区域	八
ロ 土性	八
ハ 理化学的性状	八
2 古 生 層	九
イ 区域	九
ロ 土性	九
ハ 理化学的性状	一〇
ニ 生産力	一〇
七 大豊町の地すべり	一三
八 気 象	一四
第二章 五つの象徴	一
一 国宝豊楽寺薬師堂	一九
(一) 大師堂	二三

3 目 次

(一)	通夜堂	三
(二)	鐘 楼	三
(三)	僧 行 基	三
(四)	行基草創の寺院	三
1	建築用語	三
(五)	薬師堂	七
(六)	薬師堂釈迦如来像の体内銘	二六
(七)	大宝 寺	元
(八)	仁平元年の胎内銘	元
(九)	風雪に堪えて	三
(一〇)	兵火をまぬがれて	三
(一一)	薬師堂の特色	三
1	彫刻用語	三
(一二)	豊楽寺の重要文化財	三
1	薬師如来坐像	三
2	釈迦如来坐像	三
3	阿弥陀如来坐像	三
4	三体の配列	元

(四) 県内の重要文化財(建物)	三九
1 高知城	三九
2 土佐神社社殿	四〇
3 竹林寺本堂	四〇
4 国分寺金堂	四〇
5 朝倉神社本殿	四一
6 鳴無神社社殿	四一
7 不破八幡宮本殿	四一
(四) 県内の薬師如来像	四二
(四) 県内の釈迦如来像	四二
(四) 県内の阿弥陀如来像	四三
(四) 県内の阿弥陀如来像	四三
(四) 日本一杉の大杉	四四
(一) 大杉の碑	四四
(二) 大杉の植樹	四六
(三) 八坂神社	四六
(四) 大杉の被災	四七
(四) 県内の大杉	四七
三 梶ヶ森	四八

(一)	地形地質	四九
(二)	梶ヶ森の昆虫	五〇
(三)	山の幸	五一
(四)	弘法大師と梶ヶ森	五二
1	鍛冶ヶ仁保	五三
2	降魔の剣	五三
3	御影堂	五四
4	護摩堂	五四
(五)	梶ヶ森の滝	五五
1	轟の滝	五五
2	竜王の滝	五五
(六)	梶ヶ森と史跡	五七
1	杖立山	五七
2	遠流の史跡	五八
3	梶ヶ森と国見山	六一
4	つづきの釜	六二
5	姥神社、山の神、地藏堂	六二
四	吉野川	六四

(一)	吉野川命名のもと	六五
(二)	吉野川の景観	六六
(三)	吉野川の流れに沿って	六七
(四)	吉野川と流材	六九
(五)	吉野川流木に関する阿波藩との交渉	七一
1	土佐流木の禁止	七三
2	流木の再開交渉の経過	七五
3	江戸城西丸御用木流下について交渉	七五
4	慶応年代の再開交渉と妥結	七五
(六)	嶺北文化の母吉野川	七五
(七)	吉野川と文献	七六
(八)	吉野川の魚	七七
(九)	吉野川川戸の渡し	七七
五	三谷家文書	七九
(一)	三谷家文書控	八一
(二)	三谷家所蔵文書	八二
(三)	三谷家文献(その一)	八三
(四)	三谷家文献(その二)	八五

(四) 西峰口番所跡……………	八九
(六) 西峰村庄屋松本家……………	九〇
豊永の地名……………	九三
(一) 備中守豊永説……………	九五
(二) 九州豊永説……………	九七
(三) 巫覡配流説……………	一〇一
第三章 先史時代……………	
一 無土器時代、旧石器時代と縄紋式土器時代……………	一〇六
二 吉野川流域の人文……………	一〇八
三 先住民族はアイヌ……………	一〇七
四 アイヌ族の吉野川上流への移動……………	一〇八
五 祖先の定着……………	一〇九
第四章 上古時代……………	
一 アイヌ先住族の次に入った民族……………	一一三
二 大綿津見系神社……………	一一四
三 八木氏の出自……………	一二七

(一) 八木氏の下国	一七
(二) 八木氏に関する史料	一九
(三) 土佐日記と八木氏	二〇
(四) 西峰の板屋	二四
(五) 長宗我部氏	二五
(六) 長徳寺文書と八木氏	二六
(七) 御子谷讓状	二八
(八) 蕃衍する八木一族	二九
(九) 八木氏と綾氏	三〇
四 大豊の黎明	三二
(一) 巫覡の配流	三三
(二) 巫覡文化の発祥、巡教と社寺の創立	三三
(三) 巫覡の配所	三三
(四) 巫覡の来た巡路	三四
(五) 流刑の仕法	三四
(六) 谷相配所	三五
(七) 宇佐八幡宮と配流者の関係	三七

第五章 源平盛衰時代

一 平家の滅亡……………一四〇

(一) 平家一門阿波、土佐に潜行……………一四一

二 落人と文化の発達……………一四四

三 大豊にのこる落人の伝説……………一四四

四 源氏と大豊……………一四七

第六章 吉野朝時代

一 荘園……………一五〇

二 荘園の歴史……………一五三

三 荘園の内部……………一五五

四 荘園の職制……………一五五

五 荘園と地頭……………一五七

六 鎌倉幕府の制度の一つとしての地頭……………一五七

七 阿波の地頭……………一五八

八 倉敷の意義と大豊……………一五九

九 田井庄……………一六〇

十	田井庄と西園寺氏	一六三
十一	田井庄と小笠原氏	一六五
十二	吉野朝時代	一六九
(一)	宮方豊永、小笠原の進出	一七四
(二)	大高坂落城	一七六
(三)	花園宮の行方	一七八
(四)	大砂子の新田神社と花園宮	一八一
(五)	四国は武家方の手に	一八〇
(六)	阿波山岳武士	一八三
(七)	讃岐財田の義挙	一八五
(八)	後村上天皇踐祚	一八七
(九)	西阿山岳武士の活動	一八九
(一〇)	阿波山岳武士と土佐	一九一
(一一)	大忍庄の人々	一九六
(一二)	修験者の通路	一九九
十三	吉野朝廷と熊野と大里庄(大忍庄)	二〇〇
(一)	吉野川	二〇一

(一)	豊永の小笠原氏	二一〇
(二)	吉野朝廷と熊野水軍	二一一
(三)	淡路、阿波の水軍	二一八
(四)	阿波三位中将	二一四
(五)	上臈屋敷と若宮七神社	二一〇
(六)	尊良親王のこと	二一〇
(七)	親王の最期	二一四
(八)	1 豊永民謡上臈屋敷	二一五
(九)	1 太平記抄	二一八
(一〇)	土佐での文献と遺蹟	二一九
(一一)	阿波の文献と遺蹟	二二〇
(一二)	淡路沼島の遺蹟	二二四
(一三)	豊永の文献と遺蹟	二二五
(一四)	1 杖立峠	二二六
(一五)	四国地の新田神社	二二八
(一六)	伊良親王	二四三
(一七)	再び天声人語を	二四五
(一八)	1 経塚の築造と大豊	二五〇

第七章 戦国時代

一 長宗我部氏と豊永氏	三三
(一) 桑名氏先祖	三七
(二) 北窪氏先祖	三九
(三) 長宗我部元親	三六
(四) 元親の阿波攻略と豊永氏	三九
1 大西覚用との和平	三九
2 大西覚用の寝返り	三九
3 白地城の攻撃	三九
(四) 天正の一領具足	三七
(六) 天正における住民録	三九
二 長宗我部治世における庶民の生活	三七
(一) 年貢負担	三六
(二) 農産物	三九
(三) 戦国期における耕作面積	三〇
(四) 衣食住生活	三〇
(五) 長宗我部氏の民政	三三

(六)	長宗我部氏の制度	三〇五
(七)	長宗我部元親式目	三〇六
(八)	諸奉行起請の条々	三〇九
(九)	諸奉行の覚悟すべき条々	三〇九
(一〇)	長宗我部氏の滅亡	三〇九
三	豊永と小笠原氏(豊永氏)	三一〇
(一)	備中守豊永に入国する	三二四
(二)	大平土居館の創始	三二五
(三)	小笠原氏長宗我部と結ぶ	三二五
(四)	長宗我部元親阿波攻略に活躍	三二六
(五)	山内氏に仕官	三二七
(六)	北の国(豊永)押え役および大庄屋役	三二八
(七)	安田の豊永先祖伝聞記	三三三
(八)	奈半利の豊永氏	三三八
(九)	豊永、小笠原氏系図	三三二
四	都 築 氏	三四九
(一)	都築氏の祖霊社	三五二

(一) 都築文書の検討	三三
-------------	----

(二) 小笠原、伊沢、都築の関係	三五
------------------	----

第八章 藩政時代

一 山内氏の土佐入国	三六
------------	----

二 滝山一揆	三七
--------	----

(一) 滝山一揆と豊永家文書	三七
----------------	----

1 滝山一揆余聞(その一)	三三
---------------	----

2 滝山一揆余聞(その二)	三五
---------------	----

3 北山しぐれ	三七
---------	----

(二) 滝山一揆考	三五
-----------	----

三 藩政時代の行政組織	三七
-------------	----

(一) 豊永郷における大庄屋と物老	三七
-------------------	----

(二) 豊永郷大庄屋系譜	三六
--------------	----

(三) 豊永郷惣老系譜	三六
-------------	----

(四) 天保の庄屋同盟	三八
-------------	----

四 豊永郷の道番所	三八
-----------	----

(一) 大庄屋番所位置図	三八
--------------	----

(二)	土佐の三番所……………	三九一
(三)	参勤交代と立川番所……………	三九一
(四)	参勤交代陸路順並びに休泊所……………	三九四
(五)	立川御殿……………	三九五
(六)	立川の本山氏……………	三九五
(七)	立川の川井氏……………	三九六
(八)	土佐古代の官道図……………	三九六
(九)	戸手野新道の開設……………	三九八
(一〇)	西峰番所の機構と規模……………	四〇〇
(一一)	川戸詰番割……………	四〇五
五	藩政時代における諸制度と庶民の生活……………	四〇七
(一)	維新前後の西峰口番所……………	四〇七
(二)	豊永郷の諸高帳……………	四一一
(三)	延享人名録……………	四六七
(四)	幕末における豊永郷の士分……………	四七二
(五)	土佐藩の財政……………	四七三
(六)	新田開発と郷土制度……………	四七四
(七)	土佐藩における武士階級と俸禄……………	四七五

(イ)	土佐藩の税制	四七六
(ロ)	藩政時代の農政	四七六
(ハ)	本田、新田及び伐畑	四八二
(ニ)	貢米と租法	四八五
(ホ)	農地売買の制度	四八六
(ヘ)	地主と小作人	四八七
(コ)	庶民の生活	四八九
(カ)	豊永郷の百姓の生活	四九二
(キ)	切支丹宗門改め	四九六
(ク)	百姓の借金と飢饉	四九六
(ケ)	豊永郷の民家	五〇一
(コ)	民俗習慣(衣食住)	五〇四
(サ)	農作業(肥料、田植、虫送り、雨乞い)	五〇六
(シ)	相互扶助(戸番、氏子入り、講、イイ)	五〇七
(ス)	百姓の四季	五〇八
(セ)	豊永の隠居制度	五二三
(ソ)	大豊の年中行事	五二四
(タ)	村づくし	五二六

(丙)	小踊りくどき(花づくし).....	五二〇
(四)	薬師の掛合い口上.....	五二三
六	豊永郷の農民騒動.....	五二四
(一)	百姓一揆の起る要因.....	五二四
(二)	豊永郷の農民騒動.....	五二五
(三)	寛政の騒動.....	五二八
(四)	阿波農民の土佐逃散.....	五四一
1	当流新版伊多粉婦志.....	五四三
2	従是中の切.....	五四六
3	従是下の切.....	五四八
七	苗字と家号.....	五五一
(一)	地名と系図.....	五五一
(二)	地名、家号は生きた口碑.....	五五三
(三)	字と開墾.....	五五五
(四)	山窩と木地屋.....	五五五
(五)	十二所神社の木地.....	五六一

第九章 信仰と神社、寺院

一 神社（氏神）	五六四
----------	-----

（一）氏の発生	五六四
---------	-----

（二）氏族制度の確立	五六五
------------	-----

（三）氏の上と祭祀	五六七
-----------	-----

（四）祖先崇拜	五六七
---------	-----

（五）氏神と祖神	五六八
----------	-----

（六）氏族制度の崩壊と氏神の変遷	五六九
------------------	-----

二 産土神、宇夫須那神	五七〇
-------------	-----

三 熊野系神社	六三三
---------	-----

四 氏 堂	六三四
-------	-----

五 射礼百百手	六四六
---------	-----

第十章 豊永郷の産業

一 南の海、北の陸から	六五三
-------------	-----

（一）古代の農作物	六五五
-----------	-----

二 天正地検帳と豊永郷	六五六
-------------	-----

三 豊永地検帳 第一帳	六六
四 豊永地検帳 第二帳	六六
(一) 元本山郷内旧大杉村の分	六六
五 土佐国七郡郷村帳	六九
六 郷名と村落数	六三
七 大豊の農産物	六六
(一) 球根類	六六
(二) 工芸作物(煙草、楮、三桮、茶、養蚕、畜産)	六七
八 林業	六三
(一) 土佐藩の林政	六四
(二) 留山制度と山奉行	六六
(三) 豊永郷の御留山と所林	六七
九 大豊の紙業	六一
(一) 和紙の製造	六四
第十一章 人物	
小笠原備中守資宜(号豊永)	六九

豐永五郎右衛門道春	六六
桑名弥右衛門	六六
北窪白駕	六七
豐永藤五郎	六七
竹崎太郎衛門	六七
川井源次衛門勝重	六七
本山与右衛門	六七
山本伝次郎重信	六七
八木康教	六七
下村左衛門氏清	六八
吉川貞六	六八
長瀬称五兵衛茂繁	六九
上村伝兵衛	六九
前田平左衛門正義	六九
朝倉儀左衛門友景	七〇
西村掃部	七〇

櫻井右京資友	200
都築兵部丞	201
三谷三九郎	201
渡辺高右衛門	201
杉本次郎左衛門輝茂	201
則倉左仲左衛門	201
寺石左馬進	201
吉松与三八正行	201
吉松象之丞	201
豊永惣左衛門	201
佐伯正信	201
三谷佐渡	201
三谷次郎三郎	201
三谷平五郎	201
岡林市左衛門重則	201
豊永惣右衛門	201

豊永斧馬	七五
森本左内	七六
秋山玄清	七六
森彦惣武道	七六
高橋又四郎	七六
岡崎伝太夫	七七
豊永快藏	七八
吉田秀光	七八
小笠原永晴	七八
三谷藤十郎	七八
富永有隣	七八
第十二章 口碑伝説	
烏王の城と三宝様	七九
豊永七観音の由来	七九
八川の上臈屋敷 じょうろうやしき	七九
三谷の地名	七五

高須の千人塚	七五
柚木高山神社の岩倉	七六
杖立山の送り狼	七六
竜王の滝の主は福蛇か	七八
猿猴(エンコウ)のつべ抜き	七九
悲恋おけさ岩	七〇
六反の七人御先	七二
大血の川	七三
釜の尻の猿猴	七三
馬瀬の淵と蛇神	七四
柴折坂の狸	七四
水神石の狸	七六
北川の七人御先	七六
野鹿 ぬか の池の伝説	七七
まけあれ	七九
魔人と鶏の目釘	七三

猿猴と魚の話	三三
箕淵の伝説	三五
豊永の方言	三五
あとがき	三九